

駒林小 学校便り

平成29年度

6月号

6月5日発行

燃えろ！見せろ！底力！

校長 柴田 篤志



運動会スローガンは「燃えろ！見せろ！底力！」でした。

本校では、平成26年度より5月に運動会を実施するようになりました。運動会を実施する時期によって、ねらいが変わってきます。秋に実施するときは、仲間との絆を深めることが目的の一つになりますが、春に実施する場合は、クラスやたてわりグループなど新しい仲間との出会いがあり、仲間づくりが目的となります。今年の運動会は、仲間のよさを共有できる運動会になりました。運動会の取組で例年と異なっただのは、長縄跳びが運動会種目となったことです。各クラス

が赤と白に分かれて3分間長縄とびにチャレンジします。クラスで練習しているときは、赤白の対抗意識よりも、クラスでより多く跳べるようになろうという仲間意識を感じました。運動会当日も、最高記録を出して喜び合っている姿が印象的でした。長縄跳びは、運動会が終わっても継続し、本校の体力向上プログラムとして今年度取り組んでいきます。

開会式で、「子どもたちが運動会でめざす姿」について話をしました。「徒競走やリレーで最後まで一生懸命走る姿」「演技や競技で友達と協力し合う姿」「友達を大きな声で応援する姿」そして、競技が終わった時には、「勝敗に限らず、お互いに頑張ったことを認め合う姿」です。これらは、運動会だけで身に付けるものではありません。日頃の体育科学習や道徳などのすべての教育活動の中で身に付けていくものです。

実際に運動会の中で、子どもたちは期待通り、いや、期待以上の力を発揮していました。まさに、「底力」です。徒競走やリレーでは、順位に関係なく、一人ひとりが最後まで一生懸命走り、学年競技では、仲間と協力し合う姿が印象的でした。また、1、2年生の合同演技は、リズムカルな動きで、キラキラした笑顔がとてすてきでした。3年生の鳴子、4年生の花笠、それぞれが用具の音と体の動きを組み合わせ、音楽に合わせた演技ができました。5年生のリズムに合わせた動きと組体操、そして、大きな動作と迫力あるかけ声、気持ちをこめて表現した6年生の「ソーラン節」、どの学年も発達段階に応じた動きの特徴を生かし、表情にも楽しさや真剣さが現れ、一人ひとりがきらきら輝いていました。朝練を続けてきた応援団やこまりん音楽隊は、運動会の雰囲気をもより一層盛り上げ、高学年の子どもたちによる係の仕事が運動会をより効率のよいものにしてくれました。

運動会は、子どもたち一人ひとりが目標をもち、一致団結して取り組む学校の一大行事です。また、子どもたちだけでなく、保護者・家族、地域の方々などみんなの協働でつくりあげるものです。PTAの役員と実行委員、係活動では、早朝から子どもたちの登校を見守っていただき、本部・敬老席の設営や後片付けをてきぱきと行ってくださいました。また、地域種目の鈴割や綱引きにも多くの方が参加してくださいました。大人と一緒に活動する姿を見ることは、子どもたちにとって大きな学びになります。みなさんの努力の成果をたたえたいものです。家族や親戚、地域の方々、教職員などいろいろな人の支えがあり、子どもたちの健やかな育ちがあります。これからも、ご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。